

## 計測会の皆さまへのご挨拶

物理工学科応用物理分野長 高橋 聡

計測会の皆さま、計測会におかれましては、日頃より物理工学科応用物理分野の運営を助けていただき、心より感謝しております。

皆さまご存じのことと思いますが、2016年に学科専攻の改組が行われ、物理工学科/物理工学専攻・応用物理分野ができました(さらに改組があり、物理工学専攻は工学専攻・物理工学系プログラムに変わっています)。この改組により、計測工学科から生産システム工学科計測コース、さらには機械工学科計測系プログラムと引き継がれてきた「計測」の名前が分野名より消えてしまいました。物理工学科応用物理分野は、機械工学科計測系プログラム所属の教員に電気電子工学科機能電子系プログラムの先生が数名加わったスタッフで開始されており、教育も工学の基礎となる物理を幅広く学習するという計測系の教育の特徴を受け継いでいます。応用物理分野は、長い歴史をもつ計測分野を引き継いでいます。

名前が変わったことは大きなことであり、特に学生の就職においては、これまで計測系の実績による求人が、これまでどおりに来てくれるか心配でした。改組直後に就職担当だったのですが、その際には、訪問して下さった企業の皆さまに、応用物理分野はスタッフも教育理念も計測系プログラムを引き継いでいることを説明するようにしていました。企業の就職担当の方にはある程度浸透しているものと期待しています。別資料は今年度の就職状況をまとめたものです。就職先が決まっていない学生もいますが、最近も就職状況は問題なく(皆様の活躍のおかげです)、今から決まっていくはずです。学部生は7~8割が大学院に進学します。大部分が名工大の大学院です。修士(博士前期)課程を卒業した学生のうち博士後期課程に進学するのは数名程度です。幸いなことに、幅広い企業から求人をいただいております。企業側からは、大学で学んだことを応用、発展させる力を重視しており、ものづくりの基礎となる物理を幅広く学習する応用物理分野の学生にはこのような能力を期待しているという声が多く聞かれた印象を持っています。就職先は、自動車・機械、材料関連、電機・電子部品、が主になりますが、化学・エネルギー、建築・プラント、情報・通信サービス、など多岐にわたっています。皆さまの会社に応用物理の学生が就職していたら、どうかよろしく願いいたします。

計測の名前が分野名から消えたことで、学生のOBやOGとの絆の意識が低下してしまうことを心配しております。私もそうでしたが、学生時代には同窓生の絆がいかに大切かをあまり考えていないものなのではないでしょうか?学生に先輩方とのつながりについて考えてもらうことがとても重要であると考えております。計測会から授与していただいております計測会賞は学生の間で広く認知され、かつ大変名誉なことであると認識されております。計測会賞の表彰は、絆を考えてもらうとても重要な機会となっております。また、産業論という授業科目では、

学生に専門技術者としてのキャリアについて考える能力を涵養してもらうことを目標に、産業界で活躍する外部講師に授業をしていただいています。昨年度は、計測会会員の大鹿秀正様に講義をしていただきました。絆のありかたとしては逆のパターンですが、就職後に大学の先生に協力していただき大きな成果をあげられた話は、学生に強い印象を与えたようです。計測会賞、計測会主催の講演会に学生の参加を促すことも含めて、このような機会を増やしていきたいと考えております。

近年、大学の状況は厳しいものになっております。国からの評価が低い大学では、退職された教員の補充もままならなくなってきており、大学がなくなってしまうことにもなりかねない状況です。幸い、名工大ではこのような心配は今のところなさそうです。教職員、学生が頑張っていることありますが、皆さまの活躍が、応用物理分野、さらには名工大の価値を高めております。今後とも、物理工学科応用物理分野をよろしく願いいたします。